

| | | | | | | | | |
|-------------------|--|---|------|---------|-----|----------|-----|----------|
| 授業科目名 | 【G】 特殊講義(日本政治外交史) | 区分 | 開講年次 | 【G】3 | 単位数 | 【G】2 | | |
| | | 選択 | | | | | | |
| 科目区分 | 専門科目 | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | | | | | |
| 担当形態 | 単独 | | | | | | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | | | | | |
| サブタイトル | 大日本帝国の拡大・崩壊とその後 | | | | 担当者 | 田中 秀典 | | |
| 授業概要 | 【概要】 | 「富国強兵」「殖産興業」が明治維新のスローガンとしてあまりに有名であるように、幕末維新期の最大の政治課題はどのようにして独立を維持するかということにあり、そのために不可欠な軍事力とそれを支える経済力の獲得、それらを実現するための諸制度の確立と産業革命の進展に力が注がれた。その過程および延長線上では、様々な外交が繰り広げられ、戦争も経験しながら領域を拡大していった。この間に国内外で何が起こり、何を考え、何がどう選択され、どのような結果を導いたのか。米国・英国・ドイツ・ロシア(ソ連)・清(中華民国・中華人民共和国)等、国際政治史上の主要なアクターの動きを整理する中で日本外交を捉え、そこから見える近代日本の姿について考える。 | | | | | | |
| | 【到達目標】 | 近代日本の外交・戦争・領域の拡大について、どのようなものか説明できるようになる。 | | | | | | |
| 履修条件 | 歴史学概論、日本史概論を履修していることが望ましい。 | | | | | | | |
| アクティブラーニングの方法 | 【－】 | 事前学習型 | 【－】 | 反転授業 | 【－】 | 調査学習 | 【－】 | フィールドワーク |
| | 【－】 | 双方向アンケート | 【－】 | グループワーク | 【○】 | 対話・議論型授業 | 【－】 | ロールプレイ |
| | 【－】 | プレゼンテーション | 【－】 | 模擬授業 | 【－】 | PBL | 【－】 | その他 |
| ディプロマ・ポリシーとの関連性 | DP(ディプロマ・ポリシー)① | － (当てはまらない) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)② | － (当てはまらない) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)③ | ◎ (よく当てはまる) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)④ | － (当てはまらない) | | | | | | |
| 他科目との関連性 | 歴史学概論、日本史概論、政治経済史Ⅱ、日本法制史Ⅱ | | | | | | | |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する | | | | | | | |
| 参考書 | 北岡伸一『日本政治史 外交と権力』増補版(有斐閣)、滝田賢治『国際政治史講義 20世紀国際政治の奇跡』(有信堂高文社)、森本敏『安全保障論 21世紀世界の危機管理』PHP研究所、伊藤隆ほか『世界の中の日本が見える 私たちの歴史総合』(明成社)ほか。これら以外は適宜紹介する。 | | | | | | | |
| 評価方法 | 毎回の授業内での小レポート等【30%】・授業最終回に実施する学習到達度の確認【70%】で評価する。 | | | | | | | |
| フィードバック方法 | 提出された小レポート等に対してコメントする。 | | | | | | | |
| 評価基準 | 上記授業単元の内容について、歴史的事象およびその大きな流れと因果関係について理解し、それを適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」評価とする。理解や表現に不適切な点のある者にはその程度に応じて「B」または「C」とし、理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。試験欠席など、評価不能の場合は「F」とする。 | | | | | | | |

| 授 業 科目名 | 【G】 特殊講義（日本政治外交史） | 区 分 | 開講年次 | 【G】3 | 単位数 | 【G】2 |
|------------|--|-----|------|------|-----|---------------------------------------|
| | | 選 択 | | | | |
| 授業回数 | 授業内容 | | | | | |
| 1 | ガイダンスーこの講義で扱うこと 世界情勢と国境の確定ー蝦夷・樺太・琉球、そしてハワイ | | | | | |
| | 予習： シラバスを確認する。(2時間) | | | | | 復習： 蝦夷・樺太・琉球の歴史について整理する。(2時間) |
| 2 | 朝鮮情勢と日清戦争 | | | | | |
| | 予習： 李氏朝鮮の歴史について調べる。(2時間) | | | | | 復習： 日本・清・朝鮮の関係について整理する。(2時間) |
| 3 | 下関条約と台湾統治 | | | | | |
| | 予習： 台湾の歴史について調べる。(2時間) | | | | | 復習： 台湾統治の問題点について考察する。(2時間) |
| 4 | 列強の中国大陸進出と北清事変 | | | | | |
| | 予習： 列強の対外進出の動きについて整理する。(2時間) | | | | | 復習： 北清事変後の列強の動きについて整理する。(2時間) |
| 5 | 日露戦争と国際関係 | | | | | |
| | 予習： 日露戦争前の国際関係について整理する。(2時間) | | | | | 復習： 日露戦争後の列強の動きについて整理する。(2時間) |
| 6 | 韓国併合と統治政策 | | | | | |
| | 予習： 日清戦争後の朝鮮国内の動きについて整理する。(2時間) | | | | | 復習： 朝鮮統治の問題点について考察する。(2時間) |
| 7 | 第一次世界大戦と南洋委任統治 | | | | | |
| | 予習： 第一次世界大戦前の国際関係について整理する。(2時間) | | | | | 復習： 南洋統治の問題点について考察する。(2時間) |
| 8 | ワシントン体制と協調外交 | | | | | |
| | 予習： 第一次世界大戦後の国際関係について整理する。(2時間) | | | | | 復習： 協調外交の背景と問題点について考察する。(2時間) |
| 9 | 強硬外交への転換 | | | | | |
| | 予習： ワシントン体制後の国際関係について整理する。(2時間) | | | | | 復習： 強硬外交の背景と問題点について整理する。(2時間) |
| 10 | 満州事変と満州国の成立 | | | | | |
| | 予習： 中華民国の歴史について調べる。(2時間) | | | | | 復習： 満州国の統治の問題点について考察する。(2時間) |
| 11 | 日中戦争の始まり | | | | | |
| | 予習： 中国国民党の動きについて調べる。(2時間) | | | | | 復習： 中国国民党と共産党との対立関係について考察する。(2時間) |
| 12 | 太平洋戦争と大東亜共栄圏 | | | | | |
| | 予習： 英米の日本に対する姿勢について調べる。(2時間) | | | | | 復習： 各国植民地の独立の動きについて整理する。(2時間) |
| 13 | 占領政策と朝鮮戦争 | | | | | |
| | 予習： 第二次世界大戦終結時の国際関係について整理する。(2時間) | | | | | 復習： 連合国、特に米国の姿勢の変化とその背景について考察する。(2時間) |
| 14 | 国際社会への復帰と冷戦 | | | | | |
| | 予習： 第二次世界大戦後の国際関係の変化について整理する。(2時間) | | | | | 復習： ポスト冷戦の問題点について考察する。(2時間) |
| 15 | まとめー近代日本の外交政策、学習到達度の確認 | | | | | |
| | 予習： これまでの講義内容をふりかえる。(2時間) | | | | | 復習： 近代日本の外交政策と現代的課題について考察する。(2時間) |
| その他 | レジュメや資料を配布して講義を進めるが、履修者は高等学校レベルの日本近現代史の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。「予習・復習」で示したポイントを参考にしつつ、積極的な姿勢で学んでほしい。 | | | | | |